

令和7年度第3回ユニバーサルなスポーツ施設検討会 主な発言

日 時：令和7年12月22日（月）10時00分～12時00分
場 所：兵庫県庁1号館3階会議

<進行：増田和茂座長（県障害者スポーツ協会理事長）>

議事 県内スポーツ施設との連携方策及びユニバーサルデザイン化に向けた検討

【増田座長】

- ・ 資料1に、県内スポーツ施設についての現状と課題、これらへの対応策・提言など、検討会での皆さんのお声が反映されています。この内容について、皆さんからご意見をいただきたいと思います。また、他に新たなデータ等があれば、見識を深めるためにもご提供をお願いします。
- ・ まず、2ページの現状調査について、昨年に行われた検討会でも取り上げた客観的なデータを掲載しています。
- ・ まず、障害のある方の受入れに関するソフト面について、障害のある方が優先的に使える施設は全国で150件ほどあると言われます。47都道府県で単純に割ると1都道府県あたり3件強、これに対して兵庫県では13件、全国平均の約4倍あるという状況ですが、現実には課題がまだまだあります。
- ・ 資料3ページ目の一番上の円グラフで示すように、障害者の利用時に支援ができるよう、過去に研修を受講した職員が在籍する施設は県内スポーツ施設の16.7%しかありません。
- ・ これに対するソフト面での支援策として、12ページIV2の県内スポーツ施設職員に向けた障害者対応力向上研修を提言するわけですが、来月には、この研修を実施しようと企画しています。研修のうち実技ではプールでの入退水介助を企画しています。
- ・ 青山先生は過去に論文を出されていますが、拝見しているとポイントが非常によくまとめられています。簡単にご紹介いただけますでしょうか。

【青山委員】

- ・ かなり前になりますが、パラスポーツ指導者の満足度をどうやったら上げることができるか調査しました。指導者の中には、活動したくても活動できない方が非常に多く、そこが満足度の低さにつながっているということが、研究でわかりました。
- ・ 今回の提言と直接的に関係があるかというところですが、資料3ページ目の一番上の円グラフで示されるように、障害者の利用時に支援ができるように過去に研修を受講した職員が在籍する施設は39件、県内スポーツ施設の16.7%です。これに対して、資料2ページ目下部の円グラフが示すように、障害者の施設利用時に介助等が可能な支援員が在籍する施設、実際に障害のある方の受入れが可能な施設は72件と県内スポーツ施設の30.9%あり、研修を受けていないのに介助できる方が一定数存在する状態です。
- ・ ここで良い悪いという判断は置いておいて、やはりパラスポーツ指導者にも施設職員にも障害特性を踏まえて活動していただきたいですし、その意味

でも、施設職員向けの研修はぜひ継続して開催してほしいと思います。

【増田座長】

- ・ パラスポーツ推進という観点で、スポーツ施設に所属する職員や、パラスポーツを支えるパラスポーツ指導員は県内に約1,200人います。この約1,200人のパラスポーツ指導員とスポーツ施設が連携を図れば、現状の課題の解決ができると考えます。
- ・ 青山先生がおっしゃったように、パラスポーツ指導員資格を取得したが活動する場がないという傾向は強いです。この傾向は全国的にも見られ、様々な対策が講じられています。例えば、パラスポーツ指導員の質を上げれば、活動が活性化するのではなど。これについては、私の独自調査では、パラスポーツ指導員の初級資格を取られた方でも、大会などのイベント運営への関与はできたとしても、講習で学ぶ障害特性の理解だけでは専門的な指導についての自信がないという理由で、約9割の方々はパラスポーツ指導をする段階には至っていないという結果が出ています。
- ・ これらを踏まえると、水泳、陸上、バスケットボールなどの特化した種目での指導経験がある方がパラスポーツ指導員資格を取られた方が、実際のパラスポーツ指導につながるのではと考えています。

ですので、施設職員の障害者対応力向上研修などの受講者を増やしていき、最終的にパラスポーツ指導員研修を受講してもらい、社会資源を増やしていく必要があると考えています。

- ・ 全国には約27,000人の指導員がいて、日本パラスポーツ協会が増やしていく方針を掲げています。しかし、資格を取っても更新せず、活動を継続しない方が毎年多くいらっしゃるの、パラスポーツ指導員を増やすだけでは不十分です。
- ・ 兵庫県では、障害者優先スポーツ施設の数が全国的に多く、指導者の質も全国平均よりもある程度高いのではと自負していますので、「人」についても具体的な方策を講じて、より高みを目指して取り組んでいく必要があると考えます。
- ・ ここ10年、兵庫県障害者スポーツ協会では、日本パラスポーツ協会からの委託事業として1,000万円以上の委託料をいただき、地域におけるパラスポーツの推進に取り組んできました。新銀委員や柴崎委員にもお世話になりました。昨年は三田での取組で、柴崎委員にお世話になりましたが、何かコメントをいただけますでしょうか。

【柴崎委員】

- ・ 先ほど理事長もおっしゃったように、パラスポーツ指導員には自信がないとおっしゃる方が多いです。初級パラスポーツ指導者養成講習は4日間の研修ですが、たった4日間の研修を受講しただけで、あなたはパラスポーツ指導員だから、障害のある方の指導をしてくださいねと言われても、それは少し難しいのではないかと考えています。資料2ページ以降に掲載されている調査で回答された職員の方々が、どのような障害の方を想像して回答されたかわかりませんが、知的障害を専門として、知的障害のある方と一緒にスポーツをしている私からすれば、知的障害のある方といっても、様々な個性をお持ちの方がいらっしゃいますので、4日間の研修受講だけではなかなか自

信がつくものではないのかなと思います。例えば、私のような法人職員がパラスポーツ指導者資格を積極的に取ることができれば、障害のある方に対してより深く理解できる指導者になれるのではと思います。

【増田座長】

- ありがとうございます。新銀委員にご協力いただいた昨年の取組では、ソシオエステ、精神的・肉体的・社会的な困難を抱えている人に対して医療や福祉の知識に基づいて行う総合的なエステティックという、単なるスポーツとは異なるエッセンスを導入しました。ソシオエステを体験した後で、モルックやボッチャに取り組むといった流れで実施しましたが、新銀委員、指導スタッフの精神障害のある方々へのアプローチはいかがでしたか。

【新銀委員】

- この事業には2施設が参加しましたが、実際に取り組んでみると、A施設とB施設の導入方法には違いがありました。B施設では、率先して取り組むことができ活発なやり取りができましたが、A施設の方では、あまり活発ではなかったとソシオエステの方から聞きました。
- ここから、精神障害の場合は、活動日当日の支援よりも、当日に至るまでの様々な支援が非常に重要ということを改めて感じました。そういう意味では、提言にあるような研修を受けた職員が、全くの初対面の障害のある方がスポーツをする場に参加したとしても、できることは限られるし、自信がないのは当然だと思います。その障害のある方の背景などを知ったうえで研修会に参加して指導員になることが望ましいと思います。スポーツをよく理解する方と、障害のある方一人一人の特性をよく理解している方のダブルで対応する仕組みがないと、なかなか普及しないのではと考えます。人件費が嵩んだり大変だとは思いますが、実際に関わっている者としては、そのように感じました。

【増田座長】

- 精神障害関係の事業所で働く方はパラスポーツ指導員資格について関心をお持ちでしょうか。

【新銀委員】

- 努力目標としてスポーツを広げようと思ってくださる事業所スタッフはいらっしゃいます。例えば、事業所スタッフの何割かがパラスポーツ指導員養成講習を受ければ人件費が加算されるなどの仕組みがあれば、積極的に受講してもらえenと思います。
- 後ほど資料11ページに関連して発言しようと思っておりますが、利用料金の考え方について、海外と日本の考え方は根本的に違うと改めて感じました。スポーツを広げるということは、日常生活の考え方自体も大きく変化させるものと実感しましたし、パラスポーツ指導員が、スポーツを積極的に普及させる支援者としての自覚を持つことがとても有効だと感じました。

【増田座長】

- ありがとうございます。大矢さんはパラリンピックの陸上競技に出場されましたが、パラアスリートへの指導をパラスポーツ指導員が対応することは難しい点がありますよね。これまで、大矢さんをコーチングしてきた人はどういった方々だったのか差し支えなければ教えてください。

【大矢委員】

- ・ 過去にはコーチをつけていましたが、少し環境が変わったので今は一人で練習しています。練習場所では、利用団体が多いと片身が狭くなったり、集中できない面も多いです。

【増田座長】

- ・ パラリンピック級のパラアスリートだと、高額のコーチ料が発生する有償のコーチが多く、無償のパラスポーツ指導員が競技性を重視した指導を十分に行うことは困難ではないでしょうか。パラスポーツの裾野ではなく、競技性を重視した分野では、指導者の質の問題も生じるのではと考えます。

【大矢委員】

- ・ 過去にコーチをつけていた時は、年間500万円ほどかかっていた。当時はパラリンピックメダリストとして受けたアスリート助成金や、所属団体活動費、障害年金などがあったので賄えていたが、その後の怪我により強化指定選手ではなくなったので、今はコーチをつけず、過去の指導に基づき自分なりに工夫して一人で練習しています。他の選手の状況はわかりませんが、無償のパラスポーツ指導員での指導で十分に対応できればよいなと思いつつ、同時に、現状を見ると厳しいのではとも思います。

【増田座長】

- ・ ありがとうございます。例えば、競技力を上げるためであれば、経費や組織体制が有利で、個人では施設利用しにくいなどといった点がありますね。
- ・ 安全面でも施設職員の配慮が多々あるかと思っています。笠本さんは、パラ水泳競技に取り組み、今も現役の第一線で活躍されています。パラスポーツ指導員の資格も取られていますか、指導者としても活躍されていますか。

【笠本委員】

- ・ 資格は取りましたが、実際の活動までには至っていません。パラスポーツ指導員の資格取得が実際の活動に結びつかない理由について、身体障害に関しては、やはり数が少ないという点が大きいと思います。知的障害の方はかなり多いので関わりやすいと思いますが、指導員資格を取っても、教える場所が分からなかったり、働いている指導員だと本業の仕事の合間で教える時間が作りづらかったりというのが理由としてあるのではと考えます。
- ・ 資料12ページIV2の県内スポーツ施設職員に向けた障害者対応力向上研修を来月計画されていて、プールでの実技をされる予定と聞きました。こういう障害者のスポーツとして周知をしても、なかなか人が集まらないというのが現状だと思います。集客のためには、やはり健常者の方の、例えば競技団体と連携した周知などが必要ではと思います。
- ・ 最近、パラリンピアンでは自分の名前を冠にしたイベントを開催していて、鈴木孝幸さんというパラ水泳の金メダリストの選手がいますが、東京で「Suzuki Takayuki Cup」という、健常者も障害者もマスターズスイマーでも誰でも出られるという大会が開催されました。今回が第2回目の開催でしたが、第1回目の昨年は170人ほど、第2回目の今回も370人ほどが参加しました。子どもから大人まで障害の有無に関係なく出場でき、健常者は健常者の世界記録、障害者は各クラスの世界記録にどれだけ近いかでポイント制で順位を決め、予選と決勝を行うプログラムで進むので、決勝では障害者も健常

者も並んで泳ぎ、表彰式も一緒に行い、かなり盛り上がりました。予選と決勝の間の時間には、ブラックゴーグルを使った視覚障害の体験会や、視覚障害のある方に壁の位置を合図して知らせるタッピングの体験会を行い、水泳という一つのスポーツを通じて障害の理解を広げていました。最近、このような取組をする選手が徐々に増えてきているので、障害に特化したイベントよりも、障害のある方も健常者も全て巻き込むようなイベントの方が集客面で効果的ではないかと感じます。

【増田座長】

- ・ 同じプールで障害の有無に関わらず一緒に楽しめるような工夫がなされたプログラムがよいですね。

【笠本委員】

- ・ はい。人も集まりやすく、多くの方に興味を持ってもらえるので今後つながっていくかと思います。

【増田座長】

- ・ ありがとうございます。スポーツ庁の調査結果によると、障害のある方がスポーツをしない理由として大きく分けて3点、①体力不足、②健康面で不安がある、③お金がないとされています。
- ・ この検討会での調査結果では、資料4～5ページに記載のとおり、利用料金や受付対応がハードルと感じられており、我々目線ではバリアフリーされていると感じる点でも、障害のある方からすれば、まだまだバリアフリーが進んでいないと感じる点があるようです。
- ・ 先日、スポーツ施設の利用を希望する全盲の方と待ち合わせて、この検討会でも昨年視察した神戸市立磯上体育館にガイドしました。三ノ宮駅周辺は現在工事中で危険な箇所が多く、普段のルートが使えなかったため、神戸新交通ポートライナーの貿易センター駅から徒歩で移動しました。貿易センター駅から磯上体育館までは点字ブロックが途切れていたり、横断歩道に音響式信号機がなかったり、通行人がほとんどおらず道を尋ねようにも尋ねられなかったりと、一人でアクセスするのは非常に困難と感じました。好きなタイミングで道案内を頼めるガイドチームがなければ、スポーツしたいという気持ちがあっても、スポーツする機会に結びつかないことを痛感しました。
- ・ 木村委員、兵庫県身体障害者福祉協会では民間スポーツ施設で活動されていると聞きましたが、いかがでしょうか。

【木村委員】

- ・ はい。加古川のニッケパークボウルでボウリングを行いました。このスタッフの方は障害の特性をよく理解されていて、障害のある方への対応がよく、滞りなく無事に終わりました。
- ・ グラウンドゴルフでも、スタッフが障害特性をしっかり理解されていて、困り事があればすぐにサポートしてくれるので、安心して利用できます。
- ・ 障害のある方が施設を利用するときには、一人でも、お手伝いしましょうかと一言声かけてもらえるとやはり嬉しいです。手伝ってもらえることが少ししかなくても、安心感があるので利用してみようかなと思います。やはり声かけが大事です。

【増田座長】

- ・ 障害のある方、例えば車いす利用者や視覚障害のある方などが団体にイベントをされる際にはボウリングが人気と聞きます。レジャー性が高いスポーツというのでしょうか。木村委員、会場としてニッケパークボウルを選ばれた理由はありますか。

【木村委員】

- ・ まず、駅から近い点、次に、商業施設内にあるのでショッピングできるという点があります。あと、ニッケパークボウルでは月1～2回、障害のある方や高齢者の方の大会も開催していて、大会や練習を通じて交流を深めっていると聞きました。こういった福祉の取組をする会場を選んだという面もありますね。

【増田座長】

- ・ 兵庫県身体障害者福祉協会ではグラウンドゴルフもされていますが、こちらの会場選びはどうされていますか。

【木村委員】

- ・ 会場選びにあたっては、まず、車いすの方が使えるトイレがあるかどうか、そのトイレが会場から近いかが第一の基準です。次に、駐車場が会場から近いかどうか。その次に、困り事があったときにスタッフの方が声かけをしてサポートしてくれるかどうかをポイントに選んでいます。

【増田座長】

- ・ ボウリングは、視覚障害のある方の間でもとても盛んですよね。

【木村委員】

- ・ はい。兵庫県視覚障害者福祉協会の方でも、ニッケパークボウルでボウリングをされています。

【増田座長】

- ・ 障害のある方も高齢化が進み、走る、飛ぶ、泳ぐよりも、ボウリングのような体力面を考慮したスポーツを選ぶように変化してきていますね。

【木村委員】

- ・ はい。ボウリングの場合、1投目でピンが何本か残ると、2投目はどこに投げたらよいかなど、軌跡を予測して頭を使うので、ボケ防止にもなると聞きました。

【増田座長】

- ・ 柴崎委員、兵庫県知的障害者施設協会でも、ボウリングは盛んですよね。

【柴崎委員】

- ・ はい。全国障害者スポーツ大会では、知的障害の部だけにボウリング競技がありますし、盛んです。知的障害のある方は非常にストイックで、全国障害者スポーツ大会や他の競技大会でも、1回だけスペアで残りは全部ストライクなど、ほぼパーフェクトに近いスコアを出します。競技志向の強い方は、ほとんどガータを出しません。

【増田座長】

- ・ お金を払ってでもスポーツを楽しみたいということですね。

【木村委員】

- ・ そうですね。会場によっては、シューズ代が無料になったり、ゲーム料金が安くなったりする場合があります。

【増田座長】

- ・ 新銀委員、精神障害のある方はボウリングをされていますか。

【新銀委員】

- ・ 経験としてはあるとは思いますが、サッカーやバレーボールなどの勝ち負けのはっきりする、戦う種目の方が面白いと感じて、興味があると聞きます。

【増田座長】

- ・ 久保委員、スポーツ指導という点でお聞きしたいのですが、パラスポーツ指導員やスポーツ施設の職員は、基本的に競技志向の利用者ではなく、スポーツ初心者を対象にしていると思うのですが、いかがでしょうか。

【久保委員】

- ・ スポーツ施設の職員は、障害を理解したうえで利用者と一緒にスポーツをするのが理想ですが、利用者が施設職員と個人的なお付き合いはなかなかできないですね。私はできるので大抵知っていますが、施設職員は知らない障害の方にはあまり接触できません。
- ・ 障害者スポーツ交流館では、利用者アンケート調査結果を掲示していますが、中には辛辣な意見もありました。利用者には、視覚、聴覚、精神、知的、身体の様々な障害のある方がいて、それぞれに問題を抱えているので意見も様々で、指導員に寄り添ってもらいたいと思っています。利用者もこのアンケート調査結果を見て、こんな考え方の人もいるのだなと感じていると思います。指導員も結構苦労しているなと感じました。

【増田座長】

- ・ 笠本委員、水泳教室は例外として、スポーツ施設に泳ぎに行っても施設のスタッフは一切コーチングしないですね。

【笠本委員】

- ・ そうですね。コーチングはしないです。水泳教室の時間に施設職員が安全管理や初心者の指導をしてくれています。

【増田座長】

- ・ プールの入退水介助などはしてくれますか。

【笠本委員】

- ・ 水泳教室の時間では施設職員が入退水介助をしてくれますが、普段はあまり見ません。

【増田座長】

- ・ 車いす利用者や片麻痺の方、視覚障害のある方が更衣室からプールまで安全に移動できるようなガイドとかはありますか。

【笠本委員】

- ・ 普段は、施設職員によるガイドはあまり見ませんね。水泳教室の時間では、介助の人が一緒に来る場合や、一人で来た方を職員が手伝う場合もあります。

【増田座長】

- ・ 先日、視覚障害のある方と神戸市立磯上体育館に行った際には、触図のような立体的な案内がありました。視覚障害のある方は、点字を打ってくれたらとてもよくなるのにとおっしゃっていました。点字を貼るという少しの工夫でかなり使い勝手がよくなると思っています。

【笠本委員】

- ・ 現在、神戸市立のプール3箇所全てが工事中で利用できない状態です。こうべ市民福祉交流センターもしあわせの村もポートアイランドスポーツセンターも利用できないので、初めて西宮市立総合福祉センターに行きましたが、施設職員がとても優しく、障害についてもとても理解されていました。その分ルールは厳しいのですが、久しぶりに安心して練習できました。障害についてかなり勉強されているのだろうと思っています。

【増田座長】

- ・ 大矢委員、陸上競技場では、投てきする場所が必要ですが、芝生管理や安全面の問題がありますね。

【大矢委員】

- ・ そうですね。投てきの練習をできる場はほとんどなくて、あったとしても利用できる頻度が低くて困っていて、投てきの代わりにフリスビーを投げる練習をされる方や、競技場の隅のガラス面でフォームだけ確認する方が多いですね。京都には専用の会場がありますが遠くて行きづらいです。

【増田座長】

- ・ 青山先生、6ページ目(2)のソフト面で感じる課題に関連して、先生のご見解や、何か情報があれば共有をお願いします。

【青山委員】

- ・ スポーツ指導そのものに興味がある学生にも、パラスポーツの方でも指導してもらうなど、様々なステークホルダーを巻き込みながらパラスポーツ指導員の養成に取り組んでもらえると嬉しいです。

【増田座長】

- ・ スポーツ推進委員は全国の市町村教育委員会から委嘱され、地域スポーツの推進役として、住民と行政を結ぶコーディネーターとしての役割を期待されていて、初級パラスポーツ指導者養成講習の受講料を負担する市町村もあります。こういった経費面でのサポートによって受講のインセンティブを作るなど、指導者への支援が必要かと思います。
- ・ パラスポーツ指導の現場では、例えば、ボッチャの公式の審判員資格を取得するにはそれなりの費用がかかりますし、サウンドテーブルテニスの審判員資格を取得するには受講料や登録料などがかかります。さらに資格の更新もしていかなければなりません。このように苦勞して指導員資格を取っても、指導員としての活動の場が少ない現状では、資格を活かせる機会が少ないなと実感します。
- ・ 人材育成と、育成した人材を継続的に活用することによってモチベーションを高める必要があります。
- ・ 今後、スポーツ庁の主導によって運動部活動の地域連携や地域スポーツクラブ活動への移行が進んでいく予定ですが、先生や学生さんたちをパラスポーツクラブ指導にしっかり繋げられるよう工夫が必要だと思います。
- ・ 資料6ページには、この検討会で皆さんに議論いただいた、現在のスポーツ施設のソフト面やハード面での課題が明示されていますが、他に追加したいご意見があればご発言をお願いします。
- ・ 特に、ハード面での課題として記載されている施設の老朽化は避けられない課題です。また、プールのような機械設備の場合は、整備にもランニング

にも非常に大きなコストがかかります。過去に全国で一斉に整備工事が始められましたが、どこももう限界を迎えているようです。

【笠本委員】

- ・ おそらく1985年に開催された夏季ユニバーシアードの頃に一斉に造られたプールが限界を迎えているのだと思います。造られてから今年でちょうど40年です。練習場所がなくならないよう、改修工事や点検整備も多少時期をずらすなど配慮してほしいですね。
- ・ 民間施設のプールでも、3カ月間利用休止中という話も聞いたので、おそらく同じ時期に整備されて、今改修工事が多いのではと思っています。

【増田座長】

- ・ プールでは、泳ぐ人だけではなく、歩く人も非常に増えていますね。

【笠本委員】

- ・ はい。歩く人も非常に増えていて、私たちアスリートが泳げるコース数が減ったりととても肩身が狭くなっていて、練習しづらくなってきています。

【増田座長】

- ・ そうですね。泳ぐだけではなく歩くとか、他にもアクアビクスのような健康体操など、プールの目的が多様化していますよね。

【笠本委員】

- ・ そうですね。私はプールの数が増えてくれると嬉しいですが、予算面での制約もあるのでしょうか。

【増田座長】

- ・ 昔、私がリハビリ用プールでアクアビクスの担当をしていた頃に、一般用プールに入ったら水温が低すぎて驚きました。泳ぐ人にとっては適温なのですが、歩く人、特に股関節症の術後の方にとっては水温が低すぎました。

【笠本委員】

- ・ 水温問題はありますね。私たちアスリートは、水温が高すぎると熱中症になって泳げなくなってしまうので、泳ぐ人と歩く人との間で攻防戦が繰り広げられています。特に、冬だからといって水温を上げられると私たちアスリートは練習ができず、とても困っています。高齢の利用者が増えているので、水温を高くしてほしいという声の方が大きくて、競技志向の人は負けてしまい、練習ができなくなってきました。

【増田座長】

- ・ そうなのですね。ユニバーサルな環境を整備するとしても、利用者によっては求める環境が異なってしまいますね。
- ・ 私は稲美町立健康づくり施設「いなみアクアプラザ」の温水プールをたまに利用するのですが、水温が非常に高いです。スイムやウォーキングなど目的によって必要な設備は異なってきますね。

【笠本委員】

- ・ 施設によってはお風呂ぐらい水温が高いところもあって、練習ができずとても困ります。水温を上げすぎると、余計に経費がかかるのではないのでしょうか。

【増田座長】

- ・ そうですね。施設によっては、異なる利用目的の利用者がどうすれば共存

できるのか検討が必要です。

- ・ 民間スポーツ施設では、公立施設よりも経営面が重要視されますよね。例えばコナミだと所属の水泳選手がいますが、競技用のプール機能を持っているのでしょうか。

【笠本委員】

- ・ そうですね。選手がいる民間スポーツクラブでは競技志向が強いですね。子どもは競技志向が多いので、子ども中心になります。

【増田座長】

- ・ 一般のお子さん向けのスポーツビジネスは一定ニーズがあり、プール教室やサッカー教室、しあわせの村で行われているキッズ走りっ子教室では多くの人が集まります。この教室の対象を障害のあるお子さんのみとした場合、果たしてどれだけ人が集まるのでしょうか。青山先生、いかがでしょうか。

【青山委員】

- ・ 結局のところ、子ども自身で意思決定をするわけではなく、保護者の方の意思で教室に連れられてきますので、障害のあるお子さんを対象とした場合も、親などの保護者がキーとなります。ですので、保護者の方にアプローチをかけていくことがやはり大事だと思います。保護者に情報が伝わらないと効果がないので、アクセシビリティの向上などの情報提供をいかに進めるかが重要だと思います。

【増田座長】

- ・ 木村委員、いかがでしょうか。兵庫県身体障害者福祉協会にはお子さんは入会できますか。

【木村委員】

- ・ 兵庫県身体障害者福祉協会のほかに、兵庫県肢体不自由児者協会があり、そちらに入会されているお子さんが多いです。18歳の成人のタイミングで兵庫県身体障害者福祉協会の方に移ることも可能なのですが、協会の運営維持の関係などで兵庫県肢体不自由児者協会の方に所属し続ける方が多いです。

【増田座長】

- ・ スポーツを通して2つの協会がつながる可能性もありますね。

【木村委員】

- ・ はい。我々兵庫県身体障害者福祉協会では高齢化が進んでいるので、怪我をしないようプレー前にラジオ体操を取り入れました。

【増田座長】

- ・ 先日、視覚障害のある方を対象として、ヨガをした後で卓球とブラインドボクシングをするという企画をしましたが、非常に人気で盛り上がりました。ヨガ単体でも人気ですが、別の種目と合わせると効果が絶大だと感じました。
- ・ 高齢の方も若い方もいらっしゃいましたが、運動経験が少ない方にとっては、いきなり激しいスポーツに取り組むよりは、ヨガのような移動が少ない安全なスポーツの方が好まれるのかなと感じました。
- ・ スポーツイベントのメニューづくりにおいては、参加される方の好みなどを見て工夫を凝らさないといけないと思います。
- ・ スポーツ施設の利用でも、卓球教室やバスケット教室よりもヨガやダンスの人気が出てきています。特にダウン症のお子さんたちにはダンスが非常に人気

で、ダンス教室の企画への参加者は多いです。2024年のパリオリンピックでブレイキン（ブレイクダンス）が正式種目となったように、ダンスのジャンルも増えていきますし、新たなジャンルに対応する必要性や、発表の場を提供する必要性を感じています。

- ・ 他に、視覚障害のある方には、体をあまり動かさなくても楽しめるeスポーツが、サウンドテーブルテニスと並んで人気と聞きました。
- ・ また、車いすバスケットボールは、障害当事者だけではなく、健常者の児童生徒への教育で実施されることもあり、人気のようです。今夏に尼崎市内で行ったひょうごヒューマンフェスティバルの会場でも車いすバスケの体験会を行いました。特にお子さんなどは初体験ということで興味津々でした。
- ・ 人が多く集まるイベントでの体験会などを通じた周知だと高い効果が見込まれるので、先ほど笠本委員がおっしゃったように、障害のある方のみを対象としたイベントよりも、広く一般の方向けに開かれたイベントでの仕掛けが、効果的な周知には必要だと思います。

【木村委員】

- ・ 滋賀県で行われた全国障害者スポーツ大会でも車いすバスケの体験コーナーがあり、小中高校生に非常に人気でした。車いすを体験した彼らが大きくなったときに、障害のある方目線で考えるきっかけにもなると思いますので、体験の機会を増やして行ってほしいですね。

【増田座長】

- ・ 県内のパラスポーツ活動について、地域性でみるといかがでしょうか。例えば、阪神間の方が盛んだとか、但馬など北部の方ではパラスポーツの機会が少ないなどの傾向はありますか。

【柴崎委員】

- ・ 例えば春に開催する兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会では、アクセス面の問題もあるとは思いますが、県北部からの参加者は少ないです。とはいえ、大会開催地を北部にすると、南部からアクセスしづらくなって参加者が減ってしまうのではと考えます。どうしても人口が多い地域が大会開催地となってしまうですね。

【増田座長】

- ・ 県北部にある和田山特別支援学校には寄宿舎が併設されていて、人気と聞きました。

【柴崎委員】

- ・ そうですね。私が勤める施設でも和田山特別支援学校出身の方がいらっしやいます。スポーツが盛んかどうかはわかりませんが。

【増田座長】

- ・ 豊岡市内にある県立円山川公苑では、障害のある方がカヤックやSUPを気軽に楽しめるチャレンジカヌー教室を毎年開催しています。募集人数をはるかに越えた応募があるイベントで、県外からの参加者も多く、アウトドアスポーツの人気も窺えます。
- ・ 精神障害のある方から、こんなスポーツがしたいという個々の意見は聞こえてくるのですが、相談先がわからないと言う声も聞きます。精神障害のある方の間では、組織立っての活動はあまりされていないのでしょうか。

【新銀委員】

- ・ 精神障害のある方については、チームを作るのはなかなか難しいです。個々の経済事情の問題などもありチームを作るのではなく、個々に活動している方が多く、経済面で余裕がある方は個人で教室に入っているかもしれません。サッカーではチームを作っていますが、他はあまり聞きません。

【増田座長】

- ・ チームを増やすにはいろいろな課題があるということですね。
- ・ 兵庫県障害者スポーツ協会では、11月13日に神戸市のみなどのもり公園でモルック大会を開催しました。障害福祉サービス事業所4所が参加されたのですが、参加者からは、とても楽しかった、こういったイベント情報がなかなか入手できない、施設がなくても道具さえあれば、集まってアウトドアでも簡単に楽しめるといった声をもらいました。工夫次第でスポーツに携わる方は簡単に増やせるのだと実感しました。
- ・ このモルック大会に参加された就労継続支援A型事業所の方に、3日後に開催予定だったパラクライミングのイベントのチラシをお渡ししたところ、精神障害の方が参加してくれました。こういったイベントの情報は周知しきれず、周知方法に苦慮しています。SNSのみ、逆に紙媒体のみではなかなか拡散できないといった問題があります。ひょうごパラスポーツ指導者協議会では、情報伝達ツールとして、メール、LINE、ホームページといった従来の方法に加えて、BANDというアプリを使っていますが、このBANDアプリについては、高齢の方からは使いにくいといった声も上がっていて、最新のツールを取り入れることの難しさを感じています。
- ・ 私自身の経験からも、パラスポーツの推進についてのソフト面での対策としては、情報の伝え方が非常に重要な機能を果たすのではと考えます。
例えば、スポーツ施設で新しいプログラムを始めるといった情報をどのように伝えるのが効果的なのか。皆さんご存じかと思いますが、イベントに一人で参加するのはなかなか勇気が要ります。先ほどお話ししたように、これから地域移行が進んでいきますが、知的障害のある方が一人きりで参加するのはハードルが高いです。仲間に参加できるように、例えば、施設や組織が発信するという方法があります。
- ・ 笠本委員が所属される神戸楽泳会には、弱視の方や全盲の方など様々な方が所属されていますが、イベント情報はどのように伝達されていますか。所属チームからメンバーに一斉送信されますか。

【笠本委員】

- ・ 自分から探しに行くか、それぞれの所属チームから情報が下りてきます。基本は、日本パラ水泳連盟からで、その次に近畿の水泳連盟、その次に各所属チームに下りてくるという形が多いかなと思います。

【増田座長】

- ・ 競技登録していないと情報を受け取れないということですか。

【笠本委員】

- ・ はい。先ほど増田座長からチャレンジヨガのイベントについてのお話がありましたが、イベントをされた視覚障害のコミュニティには結構な人数が参加されていると思います。定期開催されているチャレンジヨガや、他に

も卓球やブラインドボクシングなどのイベントをこの視覚障害のコミュニティで周知すれば効果があるのではと思います。

- ・ 他には、長田区では、リフレッシュセミナーのように、高齢の方を対象にしたセミナーや講演会が定期的に開催されていますが、多くの人に参加されるこういった定期開催の場で周知するというのもよいかと思います。
- ・ なぜデフリンピックがあれだけ盛り上がったかという点、民放も含めて多くのチャンネルで取り上げられたという点が非常に大きいと感じています。ただ、地域レベルのイベントに関してテレビの力を借りるのはかなり大変かと思うので、代わりに人が多く集まるところでの周知が、インターネットが苦手な方に対しても効果があるのではと思います。

【増田座長】

- ・ そうですね。大矢委員、パラ陸上では、障害者のじぎくスポーツ大会や障害者アスリートマルチサポート事業、しあわせの村でのパラスポーツ王国など、様々な大会やイベントを開催していますが、身体障害のある方の高齢化などの影響もあり、参加者はなかなか増やせないですね。

【大矢委員】

- ・ そうですね。いつも同じメンバーが来ていたり、参加人数が減っている印象を受けます。
- ・ パラ陸上での情報伝達については、パラ水泳と似ていて、日本パラ陸連を通して下りてくる仕組みになっています。

【増田座長】

- ・ パラスポーツの競技部分では、日本も強くなり、多くのメダルを獲得できるようになりましたが、パラスポーツの裾野の方、一般の障害のある方のレクリエーションとしての取組に関してはなかなか進んでいないと言われます。
- ・ パラ陸上を楽しむための用具の費用負担についていえば、レーザーレーサーなどは非常に高額で、1台70~80万円しますよね。選手用だと300万円する高額なものもあると聞きました。自費で購入される方が多いですね。

【大矢委員】

- ・ そうですね。スポンサーが付いている選手はごく一部ですし、私の障害クラスでは人数が少ないのでスポンサー獲得は難しく、自費購入が多いです。

【増田座長】

- ・ 去年は神戸で世界パラ陸上競技選手権大会が行われ、大いに盛り上がりましたね。

【大矢委員】

- ・ はい。半年位は盛り上がりましたが、熱はすぐに冷めてしまって、今はもう過去の出来事として忘れ去られているのかなという寂しい思いがあります。

【増田座長】

- ・ そうですね。神戸マラソンでは、視覚障害のある方や知的障害のある方も走っていますが、車いすでの参加は認められていませんね。

【大矢委員】

- ・ はい。神戸マラソンでは認められていません。大阪マラソンでは距離の制約はありますが、車いすでの部の参加は可能です。

【増田座長】

- ・ 車いすで公道を走るのので広くアピールできますが、制約がありますよね。
- ・ 過去に、フルマラソンへの参加を希望される知的障害のある方から相談を受けました。ペースメーカーとしての伴走が必要だが、伴走は視覚障害のある方しか認められていないので困っているといった内容でした。
- ・ 兵庫県障害者スポーツ協会で実施する出前講座に協力してもらっている、現役高校生のデフバレーボール選手がいますが、幼い頃から人工内耳を入れていて、聴覚障害があることが分からないぐらいスムーズに対応しています。彼の場合は手話通訳も要らないことが多いのですが、人工内耳を入れている方でも、人によっては手話通訳などのサポートを必要とする方もいます。
サポートする側は、状況を見ながら、必要とされる局面を判断していくことが求められますね。
- ・ 資料12ページのIVに、今後の施策の方向性における提言を記載しています。この検討会でいただいた皆様のご意見やご提案などを、今後の取組にどう繋げていくかが重要です。13ページに記載する①競技性の高い取組、逆に②パラアスリートではない一般の障害のある人が気軽に参加できる日常的な取組、また、③パラスポーツ人材の育成やパラスポーツ競技種目の普及啓発について、皆様のご経験などに基づいてご意見をいただければと思います。

【事務局】

- ・ 1点補足させていただきます。これまでの検討会での議論を踏まえまして、資料13ページ4の新たな障害者優先スポーツ施設の整備について、「神戸2024世界パラ陸上等によるパラスポーツ人口の拡大を踏まえ、さらなるパラスポーツ振興につなげるためには全県中核拠点の機能の拡充に向け、早期のパラスポーツ拠点の整備が望ましい」と記載しています。
- ・ ただ、兵庫県の財政は厳しい状況にありますので、細かい話にはなりますが、財源をどうするかが大きな問題になります。そこで、できれば「早期のパラスポーツ拠点の整備が望ましい」の後ろに、なお書きとして、財源の問題、例えば、国の有利な財源の活用についての記載と、あわせて、適正な運営に向けての工夫などの記載をしてはどうかと考えています。
- ・ 適正な運営に向けての工夫について具体的に申しますと、現在、県立障害者スポーツ交流館がありますが、さらに新しい施設を整備する場合、2施設の運営費の総額は、当然、現在の運営費よりも上がります。ですので、2施設をなるべく工夫しながら運営し、ランニングコストを抑える策を考える必要があるといった内容になります。もしも委員の皆様からのご了承を得られれば、そういった内容を「整備が望ましい」の後ろに盛り込んで、まとめをしていただくと大変ありがたいなと思っております。この点につきましてもご意見をいただければありがたいです。よろしく願いいたします。

【増田座長】

- ・ ありがとうございます。先ほどの事務局からの追記の提案についていかがでしょうか。また、この報告書の今後の取扱いについては、今後事務局にて今日の検討会の内容を踏まえて修正を加えた後、委員の皆様にご個別にお送りして再度ご確認いただきたいと思っております。その後の最終の取りまとめについては、座長である私に一任していただければと考えております。事務局からの追記の提案と、報告書の今後の取扱いについて、何かご意見やご質問ござ

いませんでしょうか。

(委員からのご発言なし)

【増田座長】

- ・ それでは、ご意見ないということで承りました。他に個別のご意見などあれば、ここでご発言をお願いします。

【青山委員】

- ・ 個人的な意見ですが、パラスポーツ施設の整備は非常にありがたいことで、すし、パラスポーツ振興として価値のあることだと思いますが、財源面では、単機能での整備にはいろいろなリスクがあったり、予算が取りにくいという難点があると思います。もちろんパラスポーツ施設は障害者優先のものではありますが、以前の議論で出てきた防災機能などの様々な複合的機能を兼ね備えた形で整理することも一つの可能性としてあるのではと思っています。
- ・ この検討会の意義を改めて確認すると、資料1ページ1の本検討会の設置経緯では、共生社会の実現を最終的なゴールとしています。この共生社会の実現に向けたプロセスの中でのユニバーサルデザイン化を考えると、障害の有無に関わらず、あらゆる人のための整備という捉え方がよいのではと思っています。

例えば、先ほどお話に出たように、プールがない、砲丸投げができないといった内容は、障害の有無に関係なく発生する阻害要因であると考え、スポーツに限っていえば、県内のステークホルダー、先ほども少しお話ししました兵庫県スポーツ協会や、県内の競技団体などの様々なステークホルダーを巻き込んで、一緒に連携しながら進めていくという内容の記載があってもよいのではと考えています。様々なステークホルダーにも責任を持ってもらって、当事者意識を持ってもらいながら、一緒に進めていきたいと思いますという方向性が、報告書から見ればよいのかなと思います。

- ・ ちなみに、スポーツ庁では、現在、スポーツ・インテグリティ推進事業というスポーツ団体ガバナンスコードの強化を推進しています。私も参画していますが、スポーツ認定区域推進事業というスポーツガバナンス行動の強化を推進しています。私も参画していますが、主に何を検討しているかという点、競技団体、行政、障害者団体、メインストリームである健常者団体などを連携したり統合していこうとしています。現在、報告書をまとめて、2、3年後から国主導で動き出す予定です。先取りではないですが、そういったことも踏まえて、兵庫県でユニバーサル推進課だけではなく、みんなと一緒に取り組んでいこうという内容が報告書内であればよいのかなと個人的に考えます。

【増田座長】

- ・ ありがとうございます。他にご意見ございませんか。

【久保委員】

- ・ 先ほどの新たな障害者優先スポーツ施設の整備の必要性についてですが、利用者側の意見をできるだけ反映することで、より良い施設になると思いますので、利用者の意見を反映することが望ましいという内容も加えていただ

ければと思います。

【増田座長】

- ・ 他にご意見ございませんか。

【事務局】

- ・ この検討会で、昨年度には県内のユニバーサルデザイン化スポーツ施設4施設に視察に行っていました。その他の県内施設や、県外施設でも、委員の皆様がこれまで利用しやすいと感じられた施設や、評価の高い施設があればぜひお教えいただけますと幸いです。
引き続きご協力のほどよろしく申し上げます。

以上